

総力を結集し、経済回復目指す

事業承継は、従来から経営者の高齢化や、後継者不足を背景に喫緊の課題となっていました。コロナショックによる事業意欲の衰退が拍車をかけるのではないかと危惧しています。

本年4月には、これまで別々に運営されていた第三者承継支援を主とする「岐阜県事業引継ぎ支援センター」と、親族内承継支援を主とする「ブッシュ型事業承継支援高度化事業」、県下の構成機関を統括する「事業承継ネットワーク」の3つが当所事務局に統合され、「岐阜県事業承継・引継ぎ支援センター」が誕生します。

その機能をしっかり持ち上げて、事業承継のみならず、創業から経営

相談、そして事業承継までシームレスに総合的に提供していかなくてはいけないと思っております。今まで以上に連携し機能強化を図るなかで、県下の商工会議所のみならず、行政あるいは各商工会、地元金融機関とも協力し、案件毎に異なる相談にワンストップで応じてまいります。

○産学官連携の推進

これまでも、岐阜大学をはじめ各大学との業務提携を行ってまいりましたが、コロナ禍で事業意欲を失う経営者も多いのではないかと危惧する中、もう一歩踏み込み、大学と中小企業の連携を更に積極的に行っていきたく思っております。

当所は、各大学の研究成果に基づく得意分野と企業活動に与える効果を把握し、また企業側の相談を細かく拾い、内容に合った大学と結びつけるといった、いわば産学の「つなぎ役」となっていければ、企業の皆様方にはより気軽に、小さな困りごとでも相談できるのではないかと思います。このような体制の構築にも新たに取組んでいきたいと考えております。

○地域企業ブランディング連携支援事業

岐阜の企業人や岐阜市と連携し、

この地域にあるさまざまな特徴ある商品やサービスの発信力、ブランディング強化ということにも取り組んでまいります。

当所の「エキスパートバンク」制度に登録されている専門家の人脈や、大手芸能プロダクション等を活用し、小規模事業者にとどまらず、地域に影響力のある中堅企業に対しても、新たな支援ができるような事業を展開してまいります。

まちづくりへの参画について

本年は、5月に岐阜市役所の新庁舎移転が控えております。また、高島屋南再開発、名鉄名古屋本線の高架化事業、さらに市役所移転に伴う旧庁舎や南庁舎の跡地利用など、岐阜のまちづくりは大きな変化を迎えます。こうした中、当所は商工業の発展に資する提言や、中心市街地の商店街および岐阜市、関係団体とともにまちづくりへ参画し、事業展開を行ってまいります。

中小企業等の支援について

中小・小規模事業者への支援は地域経済の活性化に最も重要な施策と位置付け、支援にあたっては、地域事業者の持続的発展を支援するための基本計画「経営発達支援計画」(令和3年4月1日～令和8年3月31日)を指針とし、引き続き注力してまいります。

○事業承継支援

事業承継は、従来から経営者の高齢化や、後継者不足を背景に喫緊の課題となっていました。コロナショックによる事業意欲の衰退が拍車をかけるのではないかと危惧しています。

相談、そして事業承継までシームレスに総合的に提供していかなくてはいけないと思っております。今まで以上に連携し機能強化を図るなかで、県下の商工会議所のみならず、行政あるいは各商工会、地元金融機関とも協力し、案件毎に異なる相談にワンストップで応じてまいります。

○産学官連携の推進

これまでも、岐阜大学をはじめ各大学との業務提携を行ってまいりましたが、コロナ禍で事業意欲を失う経営者も多いのではないかと危惧する中、もう一歩踏み込み、大学と中小企業の連携を更に積極的に行っていきたく思っております。

当所は、各大学の研究成果に基づく得意分野と企業活動に与える効果を把握し、また企業側の相談を細かく拾い、内容に合った大学と結びつけるといった、いわば産学の「つなぎ役」となっていければ、企業の皆様方にはより気軽に、小さな困りごとでも相談できるのではないかと思います。このような体制の構築にも新たに取組んでいきたいと考えております。

○地域企業ブランディング連携支援事業

岐阜の企業人や岐阜市と連携し、

令和3年 岐阜商工会議所 年頭記者会見

総力を結集し、 経済回復目指す

1月6日(水)、村瀬会頭と4名の副会頭がそろって年頭記者会見を行い、本年の基本方針と重点事業を発表しました。



会頭 村瀬 幸雄

昨年、コロナ禍において、岐阜商工会議所は地域商工業者の皆様方に頼りにされ、存在意義が高まったのではないかと感じております。

本年は、この難局を乗り越えるために、更に力強く皆様方のご支援、地域経済活性化に正面から取り組んでいくことを第一に、総力を結集して邁進してまいります。

その中で、令和3年度の基本方針・重点事業について、特に本年新たに取組む事業を中心に、ご説明をさせていただきます。

岐阜版スマートシティ構想で
中心市街地活性化

副会頭 大松 利幸



次世代のまちづくりを目指すスマートシティ構想が注目されています。まさに岐阜駅前周辺など岐阜市中心市街地では実現できるのではないかと。例えば岐阜では、効率性、経済性を追求ばかりするのではなく、長良川・金華山など自然に根差した景観をまちづくりにマッチングしながら、逆にこんなまちづくりを岐阜が先駆けた、というくらいの好事例となってほしいと思います。特に岐阜駅前を中心としたエリアにはそんなチャンスがあるのではないのでしょうか。

道路網整備促進に注力

副会頭 小澤 義行



社会産業基盤となる道路網整備促進の要望活動等に引き続き注力していきます。岐阜地区の活性化に繋がる東海環状自動車道西回り、また各沿線の産業振興に繋がる岐阜南部横断ハイウェイ、国道22号線の慢性化渋滞を解消し岐阜・愛知の効率的な物流ネットワークに繋がる名岐道路、この3つの道路を完成させることは産業道路だけでなく、観光道路としてもポストコロナを見据えた重要な案件ではないかと考えます。

ニューノーマルに
岐阜アパレルの可能性

副会頭 廣田 孝昭



アパレル業界は、コロナ禍においてこれまでの常識が本当に大きく様変わりしたと思います。例えば来店では、大型店より立ち寄りやすく必要なものだけ短時間で買物が済ませるような小さいお店が好まれ、また衣料品ではカジュアル化が進み、マスクはファッションの一部になりました。元々岐阜アパレルは全体的にカジュアルが得意分野ですので、衣料品のカジュアル化については、岐阜アパレルにとってまだまだ可能性が高いのではないかと考えています。

良い意味で
転がり甲斐のある年に

副会頭 井手口 哲朗



イギリスには「転がる石には苔むさず」ということわざがあるそうです。本来は、仕事や住居を転々とする人はお金が貯まらないという悪い意味で使われていたそうですが、伝わるうちに今では「常に活動的な人は新鮮である」という意味合いで使われている、つまり変異をしてきているということです。

去年1年間は、コロナ禍で社会全体が石のように転がり続けて変化をしてきました。良い意味で考えると生活や仕事に新鮮な何かを得てきたのではないかと考えています。